

令和8年度 第1回（通算第60回） 山梨県立博物館 運営委員会 議事録

日時：令和8年4月23日（木） 午後2時～午後4時

場所：山梨県立博物館 生涯学習室

出席者

【運営委員】 末木健委員長、中山誠二委員長代理、相沢季里委員、大隅清陽委員、笹本正治委員 ※市川委員は欠席

【文化振興・文化財課】 廣瀬課長

【博物館】 守屋館長、柳沢副館長、近藤学芸幹、前田総務課長、小畑学芸課長、石神企画交流課長、時田リーダー、海老沼リーダー、宮下リーダー、丸尾リーダー、中野学芸員、日比野学芸員、佐野副主査

会議の次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶等
- (3) 審議
- (4) 報告
- (5) その他
- (6) 閉会

会議の概要

- (1) 開会

- (2) 挨拶等

○館長

○委員長

- (3) 審議【非公開】

1. 令和9年度の企画展・シンボル展について

2. 令和9年度の新規研究計画について

※非公開理由：山梨県情報公開条例第8条第1号及び2号に規定する事項について審議等を行うときに該当するため（私信第3条第1項）

- (4) 報告【公開】

1. やまなし人物探訪の運営について

2. 甲州財閥顕彰強化事業について

3. 歴民協年次集会の開催について

(委員)

- ・やまなし人物探訪は丁寧に見させていただいた。最初のところで、ビデオで分かりやすくなっていて、アテンションパンというか、子供たちが見るのでも、その時間なら集中力が続くような時間を意識して作られていた。クイズ形式になっていて、その人物を興味深い、面白い人物としてとらえているのがいいと思った。最初のとっかかりとしていい展示になっていると感じた。

(委員)

- ・甲州財閥の教材化で、教育委員会とも連携するという話があったが、甲州財閥展の図録をダイジェストにするイメージだと思う。義務教育課では、郷土学習の副読本として、ふるさと山梨というものを作っている。全市町村で見開きになっていて、それぞれの地域の先生にも協力してもらって作っていて、私も少し関わった。その時はお金がないというので、各学校に、1学年分の部数を学校に配るだけ、あとはPDFにして教育委員会が管理するというようになっていた。今回は全員に配るということで、そういうことも可能なのかと。
- ・義務教育課の職員も3年で入れ替わるので、当時製作に携わった人たちももういないと思うが、考えていることは同じでも、それぞれバラバラ、みたいなことにならないようにしていただきたい。
- ・年次集会も、文化庁が厳しい方針を出したので、今日の委員会で、ある意味物騒な方向になっているなかで、県の将来像との関わりを聞こうと思っていた。もうきちんと考えられていて、連携してなんとか乗り切ろうということだと思うので、安心した。

(委員)

- ・先ほどの案は面白いけれども、予算措置はちゃんとなされている前提。どこでも仕事は増えるいっぽうなので、減らすものは減らしていかないと、全部はできない。あれもやれ、これもやれで要求通りやっていたら学芸員がいなくなる。
- ・二期工事の展望なしに、小さいものを付け加えるのはいかなものかと思う。富士山と武田、これについては調査研究を積み重ねて、何度も展示をしたうえで、二期工事で実現するというその方向性に向けてどうするのかをお考えいただきたい。二期工事については、その機運を醸成するためにシンポジウムを打っていくなどする必要があるだろう。大変さを抱え込まないと次の段階に生きていかない。今後どうするのか、スケジュールを含めて、決して館だけではなくて、郷土研究会や考古学協会、武田氏研究会など、そういうところを踏まえながら考えていただきたい。

(委員)

- ・報告を聞いて、やはり大変だという感想を持った。先日南アルプス市立ふるさと文化伝承館に来た他県の方が、山梨は近現代の人物の顕彰を熱心に行っているとびっくりされた。葦

崎市や、山梨市でもその動きが盛んで、南アルプス市の図書館で連続展示を行うなど、近現代の人物を顕彰していこうという機運が高まっている。他県の人から言わせると稀有な例だという人もいた。この方向はいいと思っている。

- ・この県立博物館は最初からテーマ展、テーマを優先したために、近現代の人物の紹介が落ちた部分がある、それを拾い上げていただいた。甲州財閥の顕彰強化という形で行われるのは、方向性としては非常にいいのではないかと思う。
- ・いっぽうで、二期工事も控えているので、そちらも忘れないでやってほしい。

(委員)

- ・やまなし人物探訪、甲州財閥顕彰強化事業は今年やっていくというものだと思うが、近代人物館がなくなってしまった。近代人物館の意義は大きく、人物館を充実させて、別館全体を人物館にしてもよいほどだ。今回顕彰事業を進めるにあたり、一過性になってしまうのではないかというおそれがある。将来的にしっかりしたものを作るということを忘れないでいただきたい。
- ・富士山も吉田のほうでやっているのだから、私は山梨の山の民俗をしっかりと展示すべきではないかと思っている。二期工事については、これは館の方ではなく本課の課長にお願いしたい。
- ・歴民協については、頑張ってください。

(委員)

- ・今年は長野県誕生150年、長野県はいくつかに分かれていて、合併して長野県になって150年、その展示のなかでも、ほとんど人の名前が出てこない。今行っている戦後の展示でも、特定の名前を出していない、林虎雄という特異な知事がいるが、その人の名前くらいしか出てこない。山梨は人の名前を出したが、長野は県民の動きとしてそういうのを好まないように思う。私も特定の個人の顕彰というのはあまり好きではない。

4. 館内LED化作業にともなう臨時休館について
5. 観覧料等の改定について
6. 令和7年度の利用者状況について
7. 開催済み展覧会について
8. 韓国清州博物館「富士山に登る、山梨」開催報告について
9. 資料・情報委員会の答申状況について
10. みんなでつくる博物館協議会の開催状況について

(委員)

- ・展示を見た感想になるが、本当に学芸員のみなさんの心温まる展示に対する力を感じて頭

が下がる。

- まず I N D E N。タイトルをアルファベットにしたのはよかった。あの難しい印傳という漢字ではなく。勝ち虫など名前の由来とか、展示も工夫がされていた。素晴らしい黒板アートがされていて、折り紙がそこに置いてあったり、展示を見て出てきて、ソファ（キッズライブラリー）に行くと何気なく甲州印伝の本が広げられているというような、そういう気配りがとてもよかった。
- 甲州財閥について、私の地元の根津記念館にもあるが、こちらの展示は人間的な興味を持てるようになっていた。甲府の駅前に監獄があって、そこでは良くないから移したとか、そういう話も知らなかったのも、とても興味深く見させていただいた。入口に入る手前のところで、全体のビデオを流していたのもよかった。ただ、そのビデオのすぐのところは改札になっていて、こちらを集中してみていると、そっちへ目が行ってしまふ、そこが気になった。案内の人の配置を考えたらどうかと思った。親しみやすくカルタがあったり、工夫がこらされていた。
- みんなのクルマに関しては、いつも博物館に足を運ばないだろうなという人たちが来てくれたように思う。私も GT-2000 を眺めたり、駐車場で車を見るのも楽しかった。

(委員)

- 韓国の博物館で3万7千人も来ていただいたというのはありがたい。クルマ展よりも多い。山梨に関心があったのか、富士山に関心があったのか。見た方の声などはあるか。

(事務局)

- これだけたくさん来ていただいたのは、清州博物館の職員の戦略がうまくいったということだと思う。山梨といっても韓国の人たちにはピンとこないもので、山梨ということでタイトルに富士山を入れたというのが大きなポイントになっていたのではないか。
- 最終日、これだけの人が行列になったというのは、神奈川沖浪裏の展示を最後の3日間だけ行ったことがあると思う。韓国ではあの絵が一番有名だということであった。この日は開館前から人が訪れて、開館時間を早める対応をしたと聞いている。
- 展示をきっかけに山梨を知ってもらおうということについて、展示交流員の話では、韓国の展示を見て興味を持って山梨に来館したというお客さんがいたという。そういう点で、山梨をアピールする、足を運んでもらおうという一定の成果はあったのではないかと思う。

(委員)

- 30年近く前に、考古博物館でも韓国の忠清北道展をやったことがある。山梨に来たのは1万人以下、8千人くらいだったと思うので、工夫が必要だとは思ふ。韓国の展示をやる博物館は、全国的に見ても多くない。日本の研究者の方もたくさんみえるのではないかと思う。

(委員)

- ・実は長野県も、交流を韓国とやっているんだけど、まったく前に進んでいない。山梨はよくここまでやっていただいたものだと思う。極端な話をすれば、長野県の3分の1くらいの人口で、これだけの数を集めているわけだから。この数は、ものすごい無理をして集めているということだと思う。このことを、県庁のみなさんにもご理解いただきたい。数が多ければいいというわけではなく、文化が浸透していかなければならないが、それにしても本当によく頑張っていると思う。

(委員)

- ・全体の入館者数が12万、ようやくコロナの影響がなくなったんだと思う。それ以前と比べても遜色がない。職員の頑張りがみえていると思う。展示についても非常に洗練されてきたなと感じている。
- ・清州博物館との交流は、ようやくここまで来たなと思っている。次は山梨でやるということなので、ぜひこういう交流、長期的な展望のなかでやっていくような、展示会だけではなく調査研究も含めて、山梨県博と清州の博物館とで共通の課題を考えていく、国際的な視野に立った調査研究が必要だと思う。

(委員)

- ・ただただ感心するばかり、よくされているなと思う。本当に一人が一馬力じゃなくて二馬力三馬力で動いていることがよくわかる。現在の展示にしても、すごいボリュームの内容で、これも多くの方が来館している。そういう努力や成果を県民の方たちに感じてもらうたり評価をしてもらうと次につながっていくかもしれない。

(委員)

- ・入館料があがるということで、チケットをつくられると思うが、常設展の観覧券に山梨のことが素敵な文章で書かれていて、みなさんこれをもってじっと見ている。こういう細かいところも工夫されていて良いと思った。

(5) その他【公開】

(事務局)

- ・配布物の案内
- ・次回委員会の案内（夏以降の開催を予定）

(6) 閉会